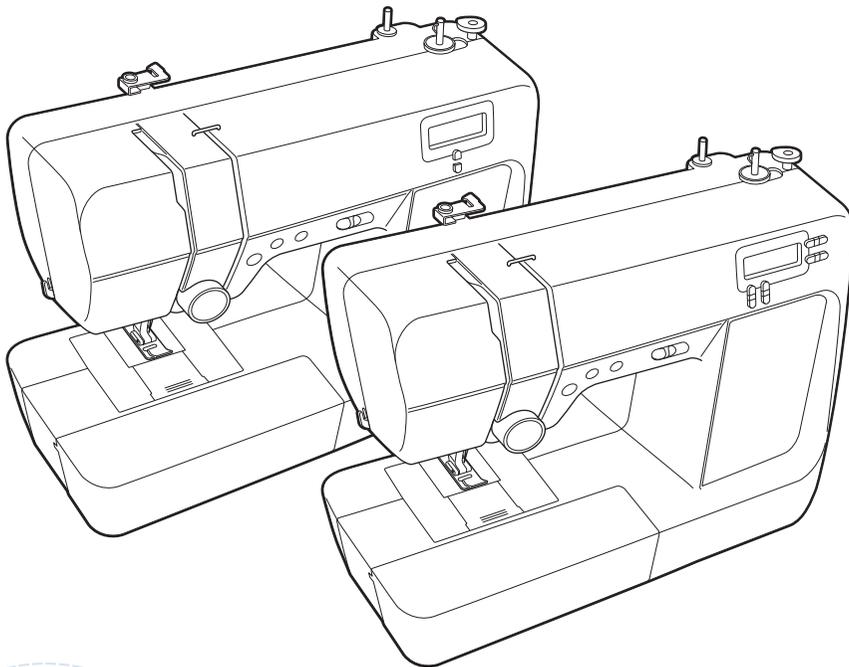


ぬい方ガイド

ぬい方ガイドでは上手にぬうためのヒントや、いろいろなぬい方が紹介されています。
ご使用になる前に必ず取扱説明書の「安全にお使いいただくために」をお読みください。
ミシンの操作方法については取扱説明書をご確認ください。



目次

上手にぬうためのヒント	3
上手にぬうコツ	3
試しぬいをする	3
ぬう方向を変更する	4
カーブをぬう	5
筒ものをぬう	6
布端から一定の距離をぬう	7
針位置を変更する (CPN50 シリーズのみ) ..	7
針板を基準にする	8
ジグザグ押え< J >を基準にする (CPN50 シリーズのみ)	9
いろいろな素材をぬう	10
厚い布地をぬう	10
薄い布地をぬう	11
伸びる布地をぬう	12
ビニールや皮革をぬう	13
面ファスナー (マジックテープ®) を ぬう	14
飾り模様をぬう	15
実用ぬい	16
地ぬいをする	17
針位置を変えるとき (CPN50 シリーズのみ)	17
布端を始末する	18
たち目かがり押え< G >を使用する	18
ジグザグ押え< J >を使用する	19
すそ上げをする	20
ボタン穴かがり	23
伸びる布地をぬうとき	26
ファスナーつけ	27
つき合わせ	27
アップリケ/パッチワーク/キルトぬい	29
アップリケ	29
パッチワーク (クレイジーキルト)	30
ピーシング	31
キルティング	32
フリーモーションキルト (CPN50 シリーズのみ)	34
その他のぬい方	36
ゴムテープつけ	36
かんどめ	37
ファゴティング	38
スカラップ	39
スモッキング	40
シェルタック	41
つき合わせ	42
ヘアールーム	43
索引	44

上手にぬうためのヒント

上手にぬうコツ

■ 試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。

布地の枚数や模様に合わせて、糸調子や模様の幅・長さを確認してください。

💡 お願い

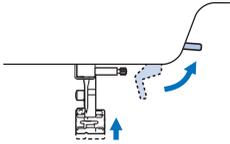
- 布地の厚みや接着芯などが仕上がりに影響することもありますので、実際にぬう前に試しぬいをしてください。
- サテンステッチをぬうときは、ぬい目がつれたり、つまったりすることがあるので、必ず接着芯を使用してください。

■ ぬう方向を変更する

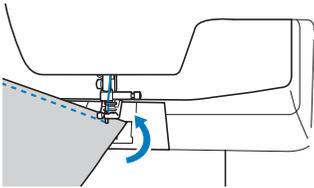
- 1 角までぬったら、ミシンを停止させます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、針を下げます。

- 2 押えレバーを上げます。



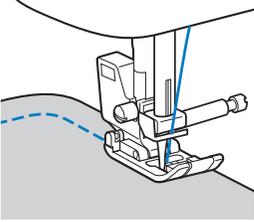
- 3 布地を持って回転させます。
針位置を基点に回転させます。



- 4 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

■ カーブをぬう

カーブの途中でミシンを停止させながら、少しずつ向きを変更してぬいます。「布端から一定の距離をぬう」(P.7)を参考にして、布端と平行になるようにぬいます。

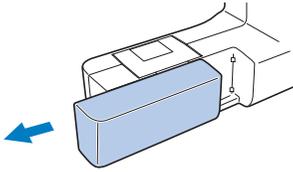


ジグザグ模様でカーブをぬうときは、ぬい目の長さを短めにする（または細かいジグザグ模様を選択する）ときれいに仕上がります。

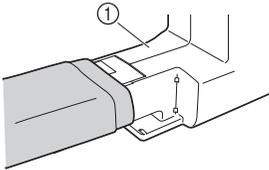
■ 筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



- 2 ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回転させながら布地をぬっていきます。



① アーム

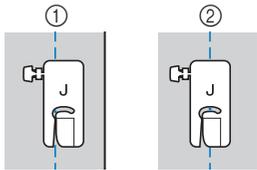
- 3 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻します。

布端から一定の距離をぬう

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしるの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

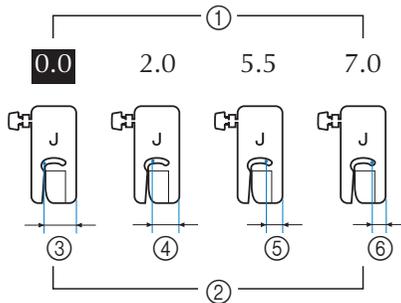
■ 針位置を変更する (CPN50 シリーズのみ)

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。

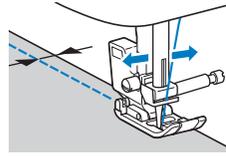


- ① 直線 [左]
- ② 直線 [中]

直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置を変更できます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



- ① 振り幅
- ② 針位置から押え右端までの幅
- ③ 12.0mm
- ④ 10.0mm
- ⑤ 6.5mm
- ⑥ 5.0mm

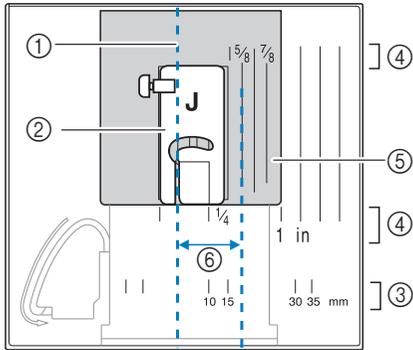


- 針位置の変更については、「針位置を変えるとき (CPN50 シリーズのみ)」(P.17) を参照してください。

■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ (約 3mm) 単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

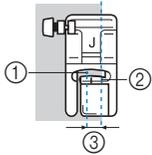
左基線の模様の場合
(振り幅: 0.0mm)



- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ mm 目盛り
- ④ インチ目盛り
- ⑤ 針板
- ⑥ 16mm

■ ジグザグ押えく J > を基準にする (CPN50 シリーズのみ)

ジグザグ押えく J > のマーキングを使用して、布端から約 5mm の幅でぬうことができます。このとき直線模様の振り幅を 2.0mm にしてください。



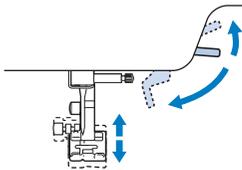
- ① 振り幅 2.0mm
- ② マーキング
- ③ 5mm

いろいろな素材をぬう

■ 厚い布地をぬう

□ 押えの下に布地が入らない場合

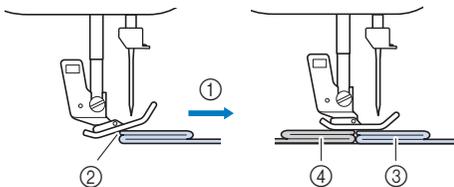
押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



□ 布地が送られない場合

デニムやキルトのような厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンを使用すると、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。

押えのずれが大きいときは、厚紙または布地（実際にぬう布地と同じ厚さにしておく）を押えのかかと部分の下に置き、スムーズにぬえるようにしてください。



- ① ぬう方向
- ② ずれ
- ③ 実際にぬう布地
- ④ 布地または厚紙

① 押えレバーを上げます。

② ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。

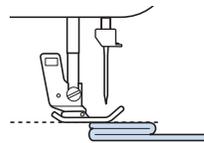
③ ジグザグ押え<J>を水平に保持して、左側の押え固定ピン（左側の黒いボタン）を押したまま、押えレバーを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

④ 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→押えが水平に保たれ、布が送られます。



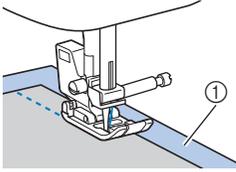
→ぬい進めると押えは元に戻ります。

⚠ 注意

- 6mm以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ 薄い布地をぬう

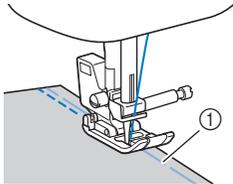
薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。その場合は布地の下にハترون紙などの薄い紙または接着芯を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



① 接着芯やハترون紙

■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をして、布地と一緒にぬいます。



① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針（先端が丸い、金色の針）を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

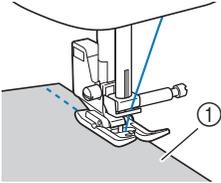
💡 お願い

- 布地の種類によっては水溶性シート（不織布タイプ）を使用できないことがあります。水溶性シートを使用するときは、水溶性シートの説明書を確認してください。

■ ビニールや皮革をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材にはウォーキングフット*、スムーズフット*を使用します。

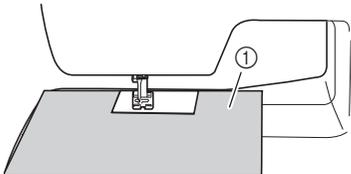
* これらの押えは別売品です。



① 皮革

テーブル面にビニールコーティングや皮革などが貼りつく場合は、テーブルの上にコピー用紙やトレーシングペーパーをしいてぬうと、滑りやすくなります。

このとき、針板にかからないように紙を置くと、紙が布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙やトレーシングペーパー

🌟 お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、ゆっくり～中速の速さでぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、布地に押えのあとが残らないことを確認してください。

■ 面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

⚠ 注意

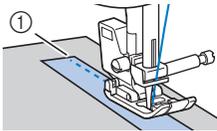
- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針や内かまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

💡 お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。

針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。詳細は、取扱説明書を参照してください。



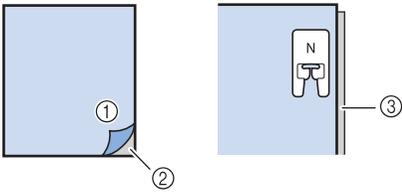
① 面ファスナーの端

📄 お知らせ

- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

飾り模様をぬう

(模様ぬい押えく N >が付属しているモデルをお使いの場合、確認してください。)

<p>布地</p>	<p>伸びる布地、薄布地、織りの粗い布地は、裏面に別売りの接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハترون紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。</p>  <p>① 布地 ② 接着芯 ③ 薄い紙</p>
<p>糸</p>	<p>50～60番</p>
<p>針</p>	<p>薄地、普通地：家庭用ミシン針 11番 伸びる布地：ニット用針（別売） 厚地：家庭用ミシン針 14番</p>

実用ぬい

模様の詳細については、下記サイトの「模様早見表」をご確認ください。
(<http://s.brother/cmkah/>)

注意

- 押えを交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、フットコントローラーまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。押えの交換については、取扱説明書を参照してください。

地ぬいをする

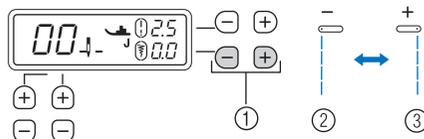
基本となる直線ぬいをします。

- 1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。
- 2 ジグザグ押え< J >を取り付けます。
- 3 模様を選択します。
 - * 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。
- 4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。
- 5 ミシンをスタートさせます。
 - 詳細は、取扱説明書を参照してください。
- 6 ぬい終わったら糸を切ります。



■ 針位置を変えるとき (CPN50 シリーズのみ)

直線模様または3重ぬい模様を選択したときに振り幅を変更すると、針の位置を調節できます。振り幅調節キーの[-]を押すと針の位置が左へ、[+]を押すと針の位置が右へ移動します。



- ① 振り幅調節キー
- ② 針の位置が左へ移動
- ③ 針の位置が右へ移動

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

■ たち目かがり押え< G >を使用する

- 1 たち目かがり押え< G >を取り付けます。



- 2 模様を選択します。

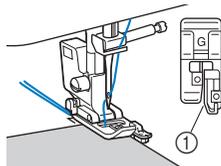


* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

⚠ 注意

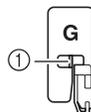
- たち目かがり押え< G >を使用するときは、必ずたち目かがり押え< G >用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

- 3 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



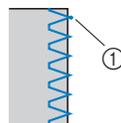
① ガイド

- 4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

- 5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① 針落ち位置

⚠ 注意

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

- 6 ぬい終わったら、ミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

■ ジグザグ押えく J > を使用する

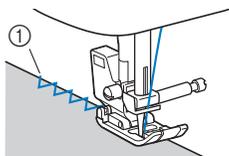
1 ジグザグ押えく J > を取り付けます。

2 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

3 針が布端右側に落ちるよう布端にそってぬいます。



① 針落ち位置

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

お知らせ

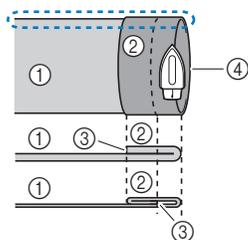
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端

2 できあがり線で布を表に戻し、アイロンをかけます。



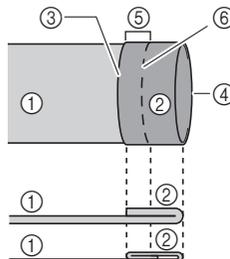
<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線

3 布端から約5mmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



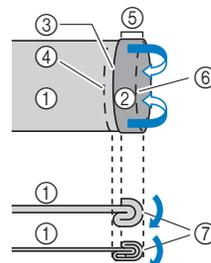
<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



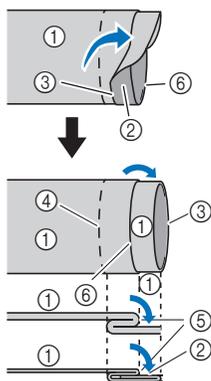
<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ
- ⑦ しつけの位置

5 布端を開いて裏返します。



< 厚い布地 >

< 普通地 >

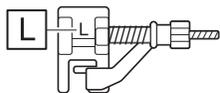
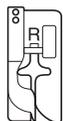
< 横から見た図 >

- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ しつけの位置
- ⑥ しつけ

6 まつりぬい押えを取り付けます。

モデルによって使用する押えが異なります。

< CPN50 シリーズ > < CPN51 シリーズ >
まつりぬい押え < R > まつりぬい押え < L >



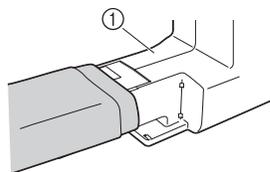
7 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地を回転させられることを確認して、ミシンをスタートさせます。

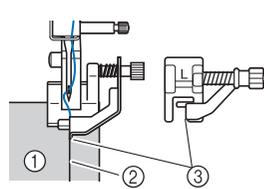
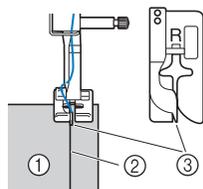


① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えレバーを下げます。

< CPN50 シリーズ >

< CPN51 シリーズ >



- ① 裏
- ② 折り山
- ③ ガイド

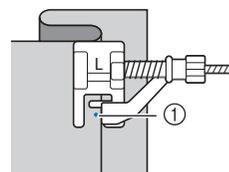
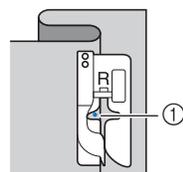
11 針の位置を調整します。

< CPN50 シリーズ >

< CPN51 シリーズ >

針が折り山に少しかかるよう、振り幅を調節します。(詳細は取扱説明書を参照してください。)

針の左落ちがわずかに折り山にかかるよう、布地の位置を調節します。



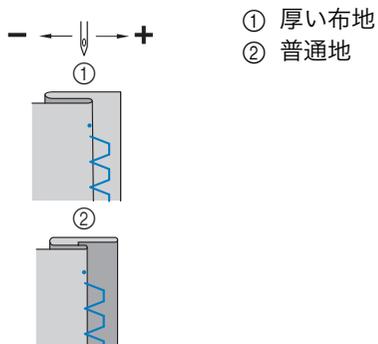
① 針落ち位置

□ 針落ち位置を変更するときは

< CPN50 シリーズ >

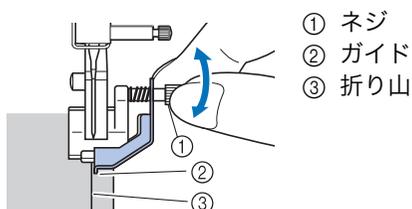
針を上げてから振り幅を調整します。

* 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



< CPN51 シリーズ >

押えのネジを回して、折り山に押えのガイドがぴったり合うように調節します。



📖 お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりにません。

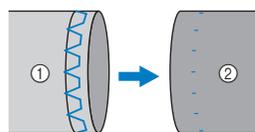
12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいませす。

13 ぬい終わったら、ミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

💡 お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に戻します。

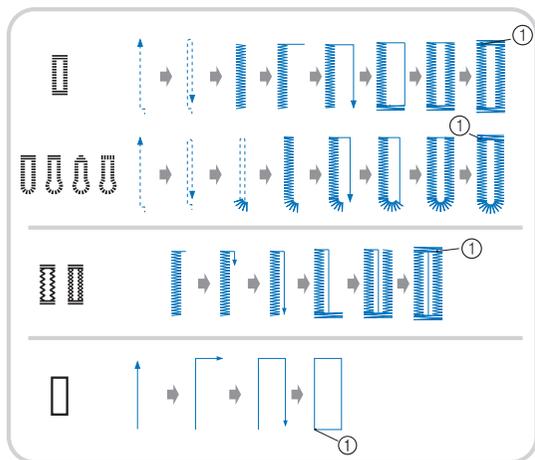


- ① 裏
- ② 表

ボタン穴かがり

「ボタンの直径+厚み」が28mm までのボタンの穴を作ることができます。

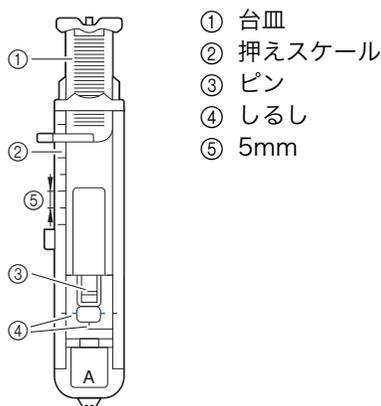
ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

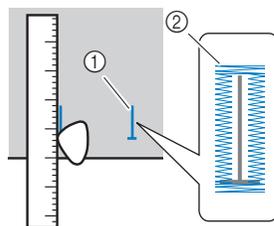
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え< A >の各部の名称は以下のとおりです。



💡 お願い

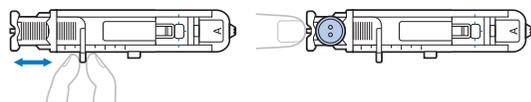
- ボタン穴かがりをする前に、仕上がりを確認するために、実際に使用する布のはぎれを使用して試しぬいをしてください。

① 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。



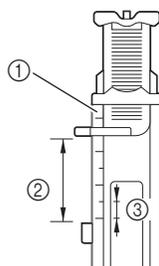
- ① しるし
- ② ボタン穴かがり（出来上がり）

② ボタン穴かがり押え< A >の台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせてはさみます。



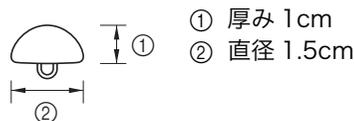
* ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。押えスケールの目盛りをボタンの直径+厚みの寸法に合わせてください。



- ① 押えスケール
- ② でき上がり寸法（直径+厚み）
- ③ 5mm

例：直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



→ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え < A > を取り付けます。

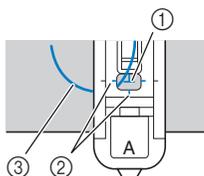
ボタン穴かがり押え < A > を取り付けの前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

4 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

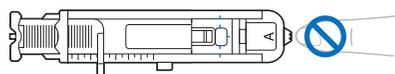
5 ボタン穴かがり押えの赤いしるし両側と布地のしるし手前側を合わせ、押えレバーを下げます。



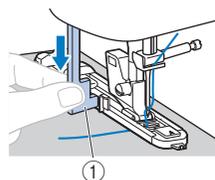
- ① 布地のしるし (手前)
- ② ボタン穴かがり押えの赤いしるし
- ③ 上糸

🔔 お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押ししないでください。ボタン穴が正確な大きさにぬえません。

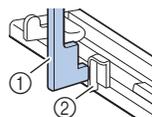


6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



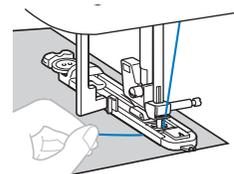
- ① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- ① ボタン穴かがりレバー
- ② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

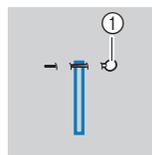


→ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

8 針と押えを上げて、布地を取り出し、糸を切ります。

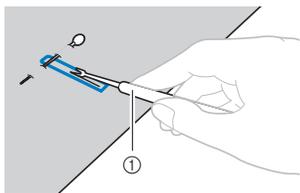
9 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

10 めった部分を切らないように、かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。



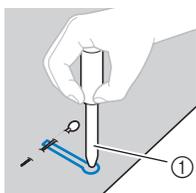
- ① まち針

- 11 リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

⚠ 注意

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

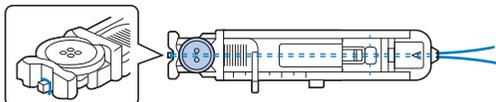
■ 伸びる布地をぬうとき

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。

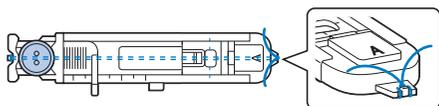


伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

- 1 ボタン穴かがり押え< A > の図の部分に芯ひもをかけます。



- 2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



- 3 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

- 4 模様を選択します。

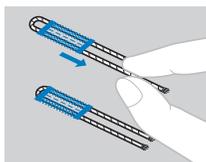


* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- 5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 6 押えレバーを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- 7 ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。

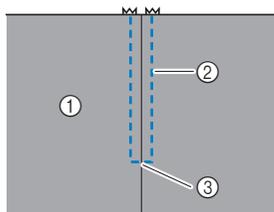


- 8 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

ファスナーつけ

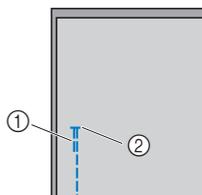
■ つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



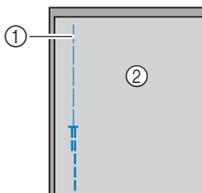
- ① 表
- ② ステッチ
- ③ あき止まり

- 1 ジグザグ押えく J >を取り付けます。
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



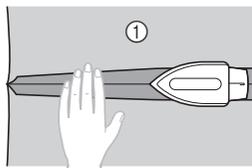
- ① 返しぬい
- ② あき止まり

- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



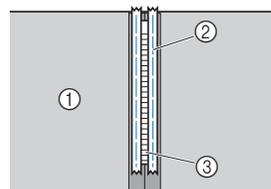
- ① しつけ
- ② 裏

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



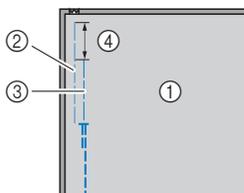
- ① 裏

- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



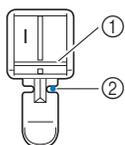
- ① 裏
- ② しつけ
- ③ ファスナー

- 6 でき上がり線のしつけを布端から 5cm の位置までほどきます。



- ① 裏
- ② ファスナーのしつけ
- ③ でき上がり線のしつけ
- ④ 5cm

- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



- ① ピン右側
② 針落ち位置

- 8 直線模様（中基線）を選択します。

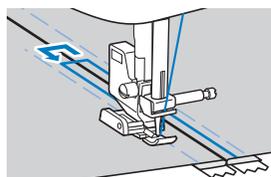
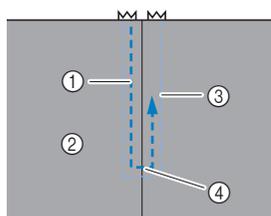


- * お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

⚠ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線模様（中基線）を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れり曲がったりするおそれがあります。

- 9 布地の表からステッチをかけます。



- ① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

⚠ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

📖 お知らせ

- 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった（布地に刺さった）状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

- 10 しつけをほどこきます。

アップリケ/パッチワーク/キルトぬい

■ アップリケ

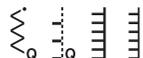
- 1 アップリケ布を土台用の布にしつけするか、のりづけをして固定します。

💡 お願い

- のりでアップリケ布を土台になる布にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると故障の原因となります。

- 2 ジグザグ押え< J >を取り付けます。

- 3 模様を選択します。

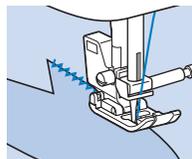


- * 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- * 上記の模様が搭載されていない場合は、 を選択してください。ぬい始めとぬい終わりは、上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結んでください。

返しぬい、自動返しぬい/止めぬい
(CPN50 シリーズのみ) は使用しないでください。

- 4 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したままミシンを止め、押えレバーを上げて少しずつ方向を変更しながらぬいます。

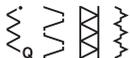
■ パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 ジグザグ押えく「J」>を取り付けます。

3 模様を選択します。

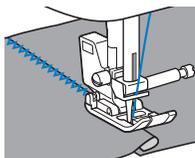
- 下記の模様は例です。お好みの模様を選択してください。



- * 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

4 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

必要に応じてまち針を使用してください。



⚠ 注意

- まち針をぬわないようにご注意ください。

■ ピーシング

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて 7mm のぬいしろを付けて裁断します。

ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から 7mm のところをぬいます。

1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押えく「J」>を取り付けます。

3 模様を選択します。

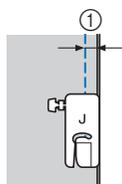


* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

□ ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、を選択し、振り幅 5.0 mm に設定してぬいます。

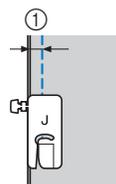


① 7mm

□ ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、を選択し、振り幅 2.0 mm に設定してぬいます。

(を選択し、振り幅を 2.0 mm にすることもできます。)



① 7mm

📖 お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、取扱説明書と本ガイドの「布端から一定の距離をぬう」(P.7)を参照してください。

■ キルティング

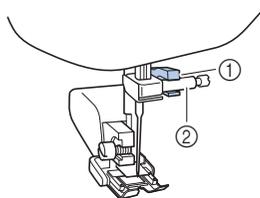
表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフット* やキルター* を使用すると、きれいにぬうことができます。

* これらは別売品です。

🔧 お願い

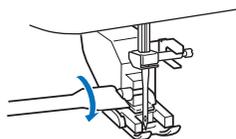
- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通し装置を使用する場合は、糸を通した後にウォーキングフットを取り付けてください。
- キルティングでは、14番の針を使用してください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをしてください。

- 1 布地にしつけをします。
- 2 押えと押えホルダーを取り外します。
 - 詳細は、取扱説明書を参照してください。
- 3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジをはさみます。



- ① ふたまた部
- ② 針のとめネジ

- 4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジをドライバーで確実にしめます。



⚠ 注意

- ネジはドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

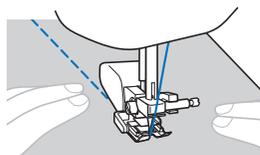
- 5 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

*  が搭載されていない場合は、 を選択してください。ぬい始めとぬい終わりは、上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結んでください。返しぬい、自動返しぬい/止めぬい（CPN50シリーズのみ）は使用しないでください。

- 6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。



□ キルターを使用する（別売）

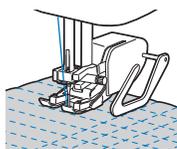
キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの後部にある穴に、キルターの棒を差し込みます。

□ ウォーキングフット □ 押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



■ フリーモーションキルト (CPN50 シリーズのみ)

フリーモーションキルトでは、フットコントローラー（別売）を取り付けて、一定の速度でぬうことをおすすめします。

ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

⚠ 注意

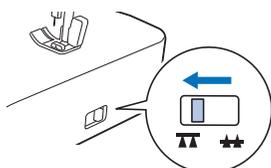
- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

キルト押え（別売）は、ジグザグ模様や飾り模様をフリーモーションキルトでぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。

□ キルト押え



- 1 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（) にします。



→ 送り歯が下がります。

- 2 模様を選択します。



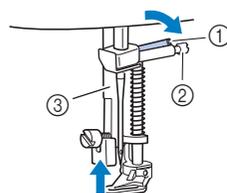
- * 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- *  が搭載されていない場合は、 を選択してください。ぬい始めとぬい終わりは、上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結んでください。返しぬい、自動返しぬい/止めぬい（CPN50 シリーズのみ）は使用しないでください。

- 3 押えと押えホルダーを取り外します。

- 押えホルダーを取り外すときは、必ず電源スイッチを切ってください。詳細は、取扱説明書を参照してください。

- 4 キルト押えのピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、キルト押えを取り付けます。

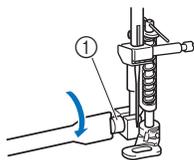


- ① ピン
- ② 針のとめネジ
- ③ 押え棒

👉 お願い

- キルト押えが傾いていないことを確認してください。

- 5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジをネジ回しでしめます。

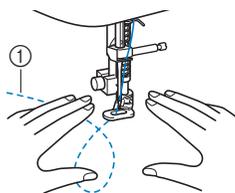


① 押えホルダーのネジ

⚠ 注意

- ネジをしめるときは、必ず付属のネジ回しを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6 両手で布地をピンと張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約2.0～2.5mmになるようにぬいます。



① ぬい目

- 7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▲▲) にし、プーリーを回して送り歯を上げます。

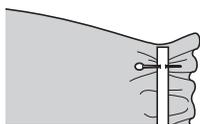
その他のぬい方

■ ゴムテープつけ

そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

- 1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



- 2 ジグザグ押えく「J」を取り付けます。

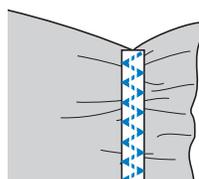
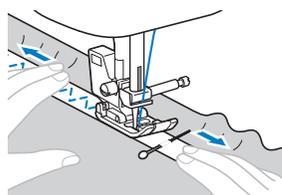
- 3 模様を選択します。



* お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- 4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



⚠ 注意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

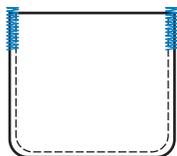
■ かんどめ

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



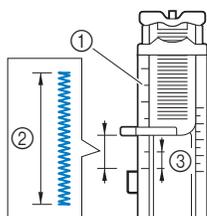
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



- ① 押えスケール
- ② かんどめのでき上がり寸法
- ③ 5mm

- 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

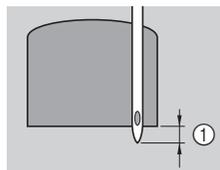
ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。



- * お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

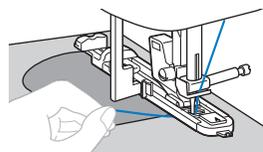
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えレバーを下げます。



- ① 2mm

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



7 ぬい終わったら押えレバーを上げ、布地を取り出してから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

■ ファゴティング

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。

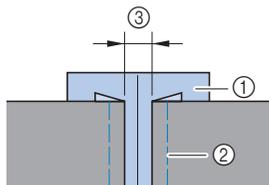


布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけます。

ハトロン紙の中央に線を書きおくとぬいやすくなります。



- ① ハトロン紙
- ② しつけ
- ③ 4mm

3 ジグザグ押え< J >を取り付けます。

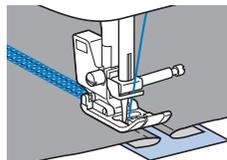
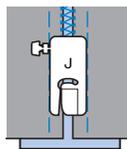
4 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

5 ジグザグの振り幅を7.0mmに設定します。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



7 ぬい終わったら、紙を取り除きます。

■ スカラップ

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やふち飾りなどに使用します。

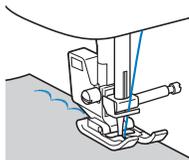
1 模様ぬい押え< N >を取り付けます。

2 模様を選択します。

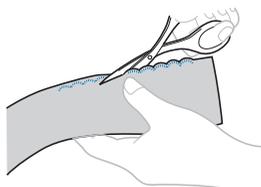


* お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



4 ぬい目にそって布端を切ります。



• ぬい目を切らないように注意してください。

■ スモッキング

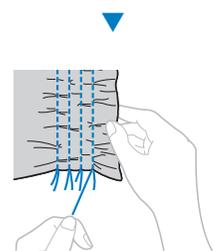
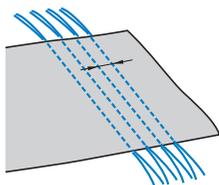
下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

- 1 ジグザグ押えく「J」>を取り付けます。
- 2 直線模様を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。
- 3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬい、下糸を引いてギャザーをよせます。
アイロンでギャザーを整えておきます。

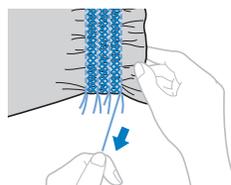
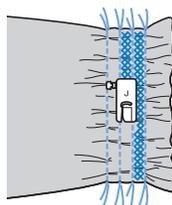


- 4 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- 5 直線模様の間をぬい、直線模様の糸を抜き取ります。



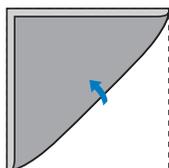
■ シェルタック

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

- 1 布地をバイアスに折ります。



- 2 ジグザグ押え< J >を取り付けます。

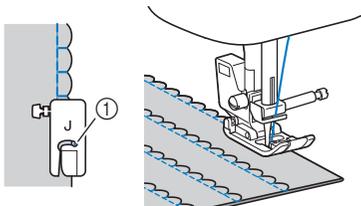
- 3 模様を選択し、糸調子を強めにします。



* お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- 4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。

線にそって順番に折り、ぬってください。



① 針落ち位置

- 5 ぬい終わったら、布地を取りだします。布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

■ つき合わせ

下記の模様が搭載されているモデルでのみご使用いただけます。



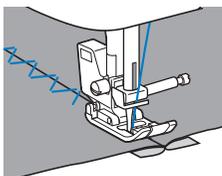
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

- 1 ジグザグ押え< J >を取り付けます。
- 2 直線模様を選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。
- 3 模様を選択します。



* 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

- 4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



■ ヘアルーム

(模様ぬい押え< N >が付属しているモデルでのみご使用いただけます。)

別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。



- ウィングニードルは、モデル名：WN001 を使用してください。
- 針の取り付け方の詳細は、取扱説明書を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。

2 模様ぬい押え< N >を取り付けます。

3 模様を選択します。

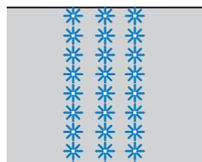


- * 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

▲ 注意

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

4 ミシンをスタートさせます。



索引

あ

厚い布地	10
アップリケ	29

う

ウィングニードル	43
ウォーキングフット	32
薄い布地	11

か

かんどめ	37
------------	----

き

キルター	33
キルティング	32
布端を始末する	18

こ

ゴムテープ	36
-------------	----

し

シェルタック	41
地ぬい	17

す

スカラップ	39
スマッキング	40

つ

つき合わせ	42
筒もの	6

て

デニム	10
-----------	----

と

ドロップレバー	34
---------------	----

ぬ

ぬいしろの幅をそろえる	7
布地	10

の

伸びる布地	12
-------------	----

は

パッチワーク	30
針位置	7, 17

ひ

ピーシング	31
皮革	13
ビニール	13

ふ

ファゴティング	38
ファスナー	27
フリーモーションキルト	34

へ

ヘアルーム	43
-------------	----

ほ

ボタン穴かがり	23
---------------	----

ま

まつりぬい	20
-------------	----

め

面ファスナー	14
--------------	----

製品に関する様々な情報（ソーイングガイド、模様一覧、サポート動画、Q&A等）は、<http://s.brother/cpkah/>をご覧ください。



動画に関する情報は <http://s.brother/cvkah/> をご覧ください。



Brother SupportCenter は、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。
Google Play™ または App Store からダウンロードしてください。



Google Play™



App Store

商標

App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。

Android、Google Play は、Google Inc. の商標です。
これらの商標の使用は、Google 使用許諾の対象となります。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室(ミシン119番)」にご相談ください。

■ お客様相談室(ミシン119番)

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合はお買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室(ミシン119番) Tel:050-3786-1134
050(ゼロ ゴーゼロ)で始まる電話番号です。
Fax:052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室(ミシン119番)は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク(銀色シール)の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室(ミシン119番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://s.brother/cpkah/>



Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報(取扱説明ビデオやよくあるご質問など)を提供するモバイルアプリです。
ダウンロードするにはGoogle Play™またはApp Storeにアクセスしてください。



ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

Version 0